桃李の里

福島市立中野小学校 学校だより
平成２９年２月９日発行（№４３）
文責 ： 校長　渡邊昌和

○福島県学力調査特集

昨年１１月９日、５年生対象に実施された「福島県学力調査」の集計結果がこのほど発表となりました。これを受けて、中野小学校５年生の頑張りの様子を、校内・市内・県内の視点から分析しましたので、その概要版をお知らせいたします。

（※なお、全国調査と同様、各小学校ごとの学力数値は明らかにできませんので、福島市と比較した「☆の数」にて表現させていただきます。）

【Ⅰ　教科別学力調査の状況】

（１）各教科の結果（☆☆☆☆☆：＋15以上 ☆☆☆☆：10以上~15未満 ☆☆☆：6~10 ☆☆：4~6 ☆：2~4 ＊：県±2未満 ★：-2~-4 ★★：-4~-6）

【国語】

平均正答率	国語全体	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	知識・理解
福島県	７１．２	６７．１	４６．５	６４．４	６３．７	７６．４
福島市	７３．３	６８．３	４８．８	６５．４	６５．７	７９．３
中野小	＊	★★	☆☆	★★	★★	☆

【算数】

平均正答率	算数全体	関心・意欲・態度	数学的考え	数量・図形	知識・理解
福島県	５０．８	３９．０	４４．２	５５．８	４９．４
福島市	５３．５	４０．８	４７．０	５８．８	５１．５
中野小	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆

【理科】

平均正答率	理科全体	関心・意欲・態度	科学的考え	観察・実験	知識・理解
福島県	６６．３	６４．０	６５．４	６１．７	６７．０
福島市	６７．０	６４．２	６５．９	６２．９	６７．６
中野小	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆

（２）各教科の特徴

①全体としては、国語は県・市の平均をやや下回ったが、算数・理科は大きく上回った。
②国語では、「話す・聞く」の内容で平均を上回ったが、「書く」「読む」といった内容では平均を下回った。
③算数では、「数学的考え」や「数量・図形」の内容に関して、平均を大きく上回った。
④理科では、すべての内容に関して、平均を大きく上回っていた。

（３）今後の課題

①「国語」の伸び不足が一番の課題としてあげられる。特に「書く」「読む」といった内容は、国語ばかりでなく、他の教科や、生活面においても課題となる。まずは「文字・文を正しく読むこと」を始め、学校生活や家庭生活など様々な面で、本や文字を「読んだり、書いたり」することを大切にしていかなければならない。ゲーム・テレビではなく、『読書』を！！
②５年生「４名」の「平均」としての結果であるため、あまり数値にとらわれすぎることなく、個別に対応することに努め、一人一人の特徴に合わせ、きめ細かい指導・支援につなげていくことが必要である。

【Ⅱ　生活・学習意識調査の状況】

（１）平均的とされる全国の数値に対して、「上回る」数値を示した項目（上位５項目）

＊学級の規範意識（＋２１．４）
（仕事・係への責任、先生の言うことを守る、勝手なおしゃべりはしない　等）
＊他者からの評価（＋１７．３）
（友達や先生からほめられる、たよりにされている、発言を聞いてもらえる　等）
＊先生のささえ（＋１５．６）
（頑張った時に認めてくれる、つらい時に相談できる、気持ちを分かってくれる　等）
＊学習の意欲（＋１１．２）
（好きな教科や授業がある、学んだことは役に立つ、間違えた問題はやり直す　等）
＊思いを伝える力（＋１１．１）
（友達と一緒に喜んだり悲しんだりする、自分の意見を言える、話を聞ける　等）

（２）平均的とされる全国の数値に対して、「下回る」数値を示した項目（２項目のみ）

＊問題解決力（－３．６）
（友達になりたい時に自分から話しかける、意見が合わない時に納得できる方法を考えられる、仲直りをする時に自分から行動する　等）
＊生活習慣（－１．５）
（毎日ほぼ同じ時間の起床や就寝、遊び時間やゲーム・テレビの時間を決める、学校の授業以外での運動　等）

（３）調査回答の特徴と、今後の課題

①　全１７項目の調査のうち、ほとんどの項目が平均を上回っており、下回ったのは「２項目」のみであった。各自がルールを守り、お互いに助け合ったり、協力し合いながら、学習に係活動に取り組むという学校生活を送っている様子が覗える。
②　学校・学級が小規模で、家族的に支え合うことができる集団である反面、何かトラブルが生じた時の「個の突破力」に関しては不足する様子が見られる。自分の思うとおりにならない「壁」にあたった時、事態を打開していく力をつけさせていきたい。
③　生活習慣に関して、いわゆる「早寝・早起き・朝ご飯」のレベルから見直さなければならない部分も見られた。今後、学校と各家庭とが連携・協力しながら生活のリズムを見直し、望ましい生活習慣を作り上げていくことや、児童一人一人の性格・特徴に合わせ、保護者と教師が情報交換しながら、きめ細かく対応していくことが必要である。